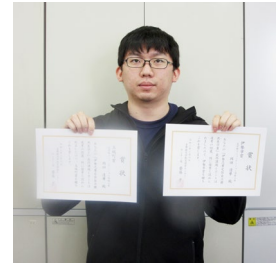


伊勢市賞



文学部コミュニケーション学科 2年 岡田 清摩

<p>地域課題に対する課題の背景とその本質</p>	<p>現在の伊勢市の人口は、「自然減」「社会減」の両方が続いている状態にあり、今後とも減少し続けていくとされている。それにより、自治会活動、市民生活、空き家問題など様々な分野で悪い影響を与えている。</p> <p>「自然減」の主な原因として未婚率の上昇に伴う出生率の減少が大きく作用している。未婚者にアンケートを行ったところ、結婚しない(できない)要因としては「出会いがない」「理想の相手に出会えていない」という意見が多かった。また、「今のところ結婚するつもりがない」という意見も高い割合になっている。</p> <p>一方で、未婚者の20代以下の7割弱、30代の5割に結婚願望がある。結婚願望はあるが、結婚できない若者が多くいることになる。(*1)</p> <p>人口増加を促すには未婚の若者の出会いの場が必要だ。</p>
<p>あなたの考える解決策</p>	<p>若者の出会いの場を設ける上で気をつけなければならないのは、若者の積極性を考慮することである。結婚できない(しない)理由の内多数を占める、「出会いがない」は自分から積極的に出会いの場を探そうとしない人が多いからではないか考えた。</p> <p>とあるデータによると、恋人がほしいと思わない人の理由の多くは「一人の方が気楽だから」とされている。結婚願望はあっても一人の生活に慣れてしまうとそのままズルズルと婚活をすることもなく一人で生活したり、あるいは婚活をしても知り合った相手を面倒に感じてしまう人が多いのではないかと思う。結婚意向のある人のうち、将来結婚できると思っている人は約半数というデータもある。つまり、結婚できるものならしたいが無理してまでする必要はない、またはできないという人が多いのである。これが「出会いがない」=積極性がない、と思う理由である。(*2)積極性のない人を一つの場所に集めるには工夫が必要だ。そこで提案したいのがサブカルチャーを使ったイベントをたくさん開催することだ。結婚に関して積極性がない人でも趣味に関してなら積極的に行動してくれるだろう。一人が慣れている人は大抵趣味を持っているし、一人でいることが多い人は他者に理解されにくい趣味を持っているので一人が好き人が多いはずだ。イベントで知り合えば共通の趣味の話題があるので会話がスムーズになり、出会いも自然にできるだろう。もちろん男女比のことも考えて題材は慎重に選ばなければならない。つまり〇〇合コンのように、共通の趣味を持っているひとだけを集めるやり方だ。結婚相手を探すというより、友達を探すくらいのフランクなノリの方が人は集まりやすいかもしれな</p>

	<p>い。そこから恋仲に発展するかは当人しだいだが出会いの場としては良いのではなかろうか。</p>
参考書籍等	<p>(*1)https://www.city.ise.mie.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/007/865/r0203jinkoubijyonkakuteiban.pdf</p> <p>(*2)http://www.recruit-mp.co.jp/news/20200115_01.pdf</p>
課題解決にグループワークで取り組むことに関する意義、利点などについてあなたの考え	<p>自分の考えだけで問題を解決しようとするより、周りのみんなの力を借りて取り組んだほうが一人よりもっといいアイデアが生まれるだろう。できないこと、苦手なことをを助け合ったり役割分担できたりもできる。</p> <p>社会に出て働くときはほとんどがグループで仕事をする機会がある。その練習にもなる。</p>